

# 狭山にゆかりのある文化人紹介 その11

## いけはら しょうじ 童絵作家 池原昭治

1939(昭和14)年～



ご自宅にて2019(平成31)年

### 1. 経歴・狭山市との関わり

香川県生まれ。小学校の時に教科書の落書きを見た先生が、絵を書くことを勧めてくれたのがきっかけ。中学校では、友達と室内で毎日絵を描いて過ごした。両親が映画館を営んでいて、活発な妹の存在は知られていたが、氏の存在は中学校を卒業するまで知られていなかった。卒業してからも絵を書くこと以外の仕事はせず、自分の絵が動くような世界に憧れ、1963年東映動画に入社のため上京。結婚を機に狭山市に転居。1972年から1978年まで「広報さやま」に絵と文を連載したものが1冊の本「狭山の絵本」となる。また、入曽公民館主催の狭山を知る学習会に参加し、1974年「狭山市郷土かるた」の出版にかかわる。その後「広報さやま」には「残しておきたい狭山の風景」を8年4か月、100回に亘って連載、現在は「さやまの昔ばなし」を連載している。「狭山市史」民俗編の中では、狭山の民話を担当する。狭山市観光大使。

### 2. 主な業績

- ・東映動画の「太陽の王子 ホルスの大冒険」「長靴をはいた猫」他に動画担当としてかかわる。また原画担当として「海底3万マイル」「ながぐつ三銃士」他の作品がある。
- ・テレビ「まんが日本昔ばなし」演出、作画、美術(背景)を担当した「きつねがわらった」「オドテさま」他の作品がある。全1474話(1975～1994)中27話が埼玉県の話。そのうち「狭山の絵本」が原作の昔話は「なすとつかえと竜神様」「大六天さま」「鬼子母神さま」の3話ある。
- ・郵政省(現日本郵便公社)ふるさと切手「通りゃんせ」の原画を担当
- ・環境庁(現環境省)「環境月間ポスター」制作担当
- ・著書「狭山市史」民俗編、「狭山の絵本」、動物昔話「がおろのおわび」他



「なすとつかえと龍神様」より

### 3. 特筆

独特なキャラクターを「童絵」と称して60年近く書き続ける。狭山市に住み始めてから歩いて民話を集め童絵で表現。

狭山の絵本「民話集1」(狭山市民文庫集第2集)のあとがきで、「絵本を持ち市内めぐりをするのが私の願い」であり、「祭り、わらべ唄、百景などといったものも題材に、私なりにふるさと狭山に取り組んで…絵を主体にした気軽な入門書風の本、10冊揃えるのが私の夢です」と書かれている。狭山市内では、小中学校給食の食器や入間川七夕まつりのポスター、様々な冊子の中で童絵に出会える。「お顔が似ていますね」とお話しすると、「だいぶしわくちゃんになりました」と微笑まれた。童絵の世界がそこにあった。そして「東北の民話に憧れていて、雪の絵を描いてみたいと思う」と言われた。

参考・引用文献 狭山の絵本「民話集1」狭山市民文庫第2集 (岸野智子)

### 編集後記

- ★定期総会が2年ぶりに対面で出来て良かった。新体制で発足ですが、会報委員会は少人数。その中で、役員を退任された岸野智子さんが、今まで通り活動していただく事に。ありがとうございます。
- ★私の所属する狭山市民謡協会、毎年8月に「民謡のつどい」を市民会館で開催し、39回まで来ましたが、昨年に続いて今年も中止に。高齢者に発表の先送りは残念でなりません。
- ★「郷土かるた」入選作は見事な五七五。全作品早く見たいものです。

(高沢正夫)